



令和5年 9月1日
佛教大学附属こども園

「仏教保育9月のねらい」
報恩感謝

「“あたり前”の有難さ」

園長 佐藤和順

長かった夏休みが終わり、2学期が始まります。認定こども園移行後、はじめての夏休みをどのように過ごしたのでしょうか。例年、子どもたちがいろいろと夏の思い出を教えてください。「花火を見に行ったよ。」「海で泳いだよ。」「旅行に行ったよ。」など家族と出かけたことを楽しそうに話してくれる子どもが多いように思います。ある時、「お墓参りしたんだよ。お花をあげたんだよ。」と話してくれた子どもがいました。家族の方と一緒にご先祖様のお墓の前で小さな手を合わせている姿が目に残り、ほほえましくなりました。

日本には「お盆」という風習があります。宗派や地域、またそれぞれの家庭によって行いに違いはあることでしょう。しかしご先祖さまを敬い、感謝することは誰しも心に留めていることと思います。今、自分がこの世に存在するのはあたり前ではなく、両親そしてご先祖さまが命をつないでくださったからであり、その命は子どもへと受け継がれています。

私たちは他人に何か親切にしてもらったり、特別であったり、目に見えることに対しては「ありがとう」と素直に思えます。一方で、目に見えないもの、あたり前のことに対してはなかなか感謝の気持ちがわいてこないものです。今、自分が生きていること、生かされていることは当然のことではなく、ご先祖さまに見守られ、命をいただき、さまざまな人や自然、物事に支えられて生活しているのだということを忘れてはいけません。「ありがとう」の語源は「有る」ことが「難しい」、「有り難い」ことです。お盆を含め、各種仏教行事はそのことを思い出す良い契機となります。毎朝、目覚めるのが、あたり前。太陽が昇るのが、あたり前。食事ができるのが、あたり前。友達といつも会えるのが、あたり前。私たちが「あたり前」と考えがちな「有難い」ことに気づき、感謝の気持ちを忘れず生活をしていきたいものです。

今月の保育の目標は「報恩感謝（ほうおんかんしゃ）社会や自然の恵みに感謝しよう」です。社会の仕組みは、自分ひとりでは何もできません。同時に衣食住のすべてに自然の恵みがなかったら一日も生活することができません。謙虚に社会や自然に感謝する心を育てましょうということです。

2学期は、子どもたちが仏さま、勢至丸さまを身近に感じる機会を増やし、あたり前のことにも感謝の気持ちを持てるようになればと願っています。

